

(実践報告)

多職種連携における学生の学び ～テキストマイニングツールによる講義の学びの分析から～

北野淑恵¹⁾ 堀 美保²⁾ 武藤英理²⁾

I. はじめに

看護基礎教育検討会報告書（厚生労働省，2019）において，患者をはじめとする対象のケアを中心的に担う看護職員の就業場所は，医療機関に限らず在宅や施設等へ広がっており，多様な場において，多職種と連携して適切な保健・医療・福祉を提供することや学生が主体的に学ぶことができる教育の推進とある．また，大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会第一次報告（文部科学省，2019）においても，包括的なケアを実施していく上で，看護職者間だけでなく多職種間連携において看護職者に期待される役割は大きく，看護系大学における教育内容において専門職連携教育の充実を図っていくこととある．つまり，近年，わが国の人口の少子高齢化や疾病構造の変化等の変化に伴う多様なニーズに対応するため患者をはじめとする対象者へケアを提供する看護職には，生活全体の質（QOL）を向上させるだけではなく，医療機関・在宅と施設という異なる場所でケアが提供できること，保健・医療と福祉等の異なる領域で学んだ多くの専門職と連携してケアを提供できることが期待されている．

2020年10月に保健師助産師看護師養成所指定規則の一部を改正する省令が公布され，2022年度は入学生から新カリキュラムが適応されることとなった．本学では基礎看護学実習Ⅰ履修後の1年次後学期に多職種連携の講義を行うこととなった．この講義では，基礎看護学実習Ⅰで看護の対象者である入院患者の人的・物理的医療環境や生活環境を理解した上で，医療機関に限らず在宅や施設等の多様な場における多職種との連携の視点が学べるように工夫した．そこで，どのような学修効果が得られたのかを明らかにすることで効果的な教授方法を検討し，今後の講義内容・方法や学修プロセスに活かすことを目的とする．

II. 科目の概要と到達目標

1. 科目の目的

看護の対象者への援助のために多職種の協働，連携とそれぞれの専門的役割について学習し，看護の専門職として主体性を持ち，他職種と関わる意義や姿勢を身につける．

2. 到達目標

- 1) 保健医療福祉における多職種について列挙することができる．
- 2) 多職種の専門的な役割について説明できる．
- 3) 在宅，医療機関，保健福祉施設などにおける多職種の連携について説明できる．
- 4) 地域連携のための看護職の役割と実際の活動を説明できる．

3. 講義の構成について

大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会第一次報告（文部科学省，2019）においてアクティブラーニングへの積極的な転換を図ることを示されていることから，学生が受動的に学ぶ講義形式だけでなく，学生が主体的に学び，学んだ知識を説明することができるように個人ワーク・グループワーク・プレゼンテーションを取り入れた．

1) 朝日大学保健医療学部看護学科（公衆衛生看護学講座）

2) 朝日大学保健医療学部看護学科（成人看護学講座）

1) 講義の内容と方法

表 1 講義の内容と方法

回数	内 容	方 法
1	オリエンテーション 専門職（多職種）連携の必要性	講義
2	保健・医療・福祉に関わる専門職について	個人ワーク① ^{*1}
3	保健・医療・福祉に関わる専門職について	グループワーク① ^{*1} プレゼンテーション① ^{*1}
4	（事例を通して）保健・医療・福祉における専門職連携について	個人ワーク② ^{*2} グループワーク② ^{*2}
5	（事例を通して）保健・医療・福祉における専門職連携について	プレゼンテーション② ^{*2}
6	専門職連携の実際①—看護師の立場から	講義
7	専門職連携の実際②—保健師の立場から	講義
8	専門職連携においての看護師の役割を考える	レポート作成

※ 1 保健・医療・福祉に関わる専門職
医師・保健師・看護師・薬剤師・管理栄養士・理学療法士・作業療法士・社会福祉士・介護支援専門員（9
職種）に 1 職種につき 10 名程度のグループとした。

※ 2 保健・医療・福祉における専門職連携
9 職種に分かれて学んだ専門職種から各 1 名の 9 名程度のグループとした。

2) 事例の概要

事 例：80 歳代 女性

生活状況：息子夫婦と 3 人暮らし 日常生活は自立 家で過ごすことが多い

既 往 歴：高血圧で近医にて内服治療 入院経験なし

現 病 歴：屋内で転倒し大腿骨骨折と診断され手術を行うため入院

主 訴：本人は再転倒への不安 息子夫婦は退院後の生活への不安

3) 教員の役割

講義では、医療機関内外での多職種連携・調整について担当教員の実務経験を活かしたエピソードを盛り込み多職種について調べるきっかけづくりとなる内容とした。特に、地域連携のための看護職の役割と実際の活動の学修を深めるために、病棟看護師・退院調整看護師・訪問看護師と保健師の実際の経験を踏まえた具体的な内容となるようにした。

個人ワーク・グループワークとプレゼンテーション準備時には、学生が主体的に学ぶことができるよう、学生の質問に答え、調べ学修が深まるようなキーワードを伝えた。また、事例を作成するにあたっては、学生が具体的な多職種の連携について考えることができ、かつ教員が学生の考えを具体化しやすいようにサポートするために、担当教員の実務経験を活かした事例を作成した。さらに、プレゼンテーション終了後には、プレゼンテーション内容や質疑応答から学修を深めるためのアドバイスをを行った。

Ⅲ. 方法

1. 対象者と倫理的配慮

本学で 2022 年度多職種連携を履修している 1 年次 84 名の学生に調査の趣旨を説明し、趣旨に賛同し同意を得ることができかつ未記入の学生を除いた 62 名（73.8%）のリアクションペーパーを分析対象とした。なお、学生には効果的な教授方法等を検討し次年度以降の講義に活かすこと、個人が特定されないこと、本学紀要へ投稿することと調査への同意の有無にかかわらず成績に影響しないことを説明した。

2. 分析方法

2022年10月(8回の講義終了後)にMoodleに学生自身が講義での学びを入力した。個人情報削除したテキストデータを、ソフトウェアKH Coderを用いてテキストマイニングツールによる内容分析を行った。

内容分析の結果を共起ネットワーク図(図1)で示した。円の大きさと出現回数の目安を右側に示した。得られた抽出語については「」で示し、リアクションペーパーの内容については『』の斜字で示す。

IV. 結果

テキストマイニングツール分析による共起ネットワーク(図1)では11つのサブグラフが示された。

多職種の専門的な役割については、02サブグラフでは、「看護師」と「多職種」が「連携」し「患者」に「医療」を「提供」に共起関係がみられた。「看護師」と「他職種」の「役割」を「知る」「学ぶ」ことが「連携」が「出来る」に共起関係がみられた。また、07サブグラフでは、「授業」で「大切」なことに「気づく」の共起関係についての回答例では『多職種連携を多職種連携で医療に関係する専門職にそれぞれ大切な役割があると知りました』等の記述があった。さらに、他のサブグラフでも共起関係がみられた。05サブグラフでは「重要」「職業」「分かる」の共起関係についての回答例では『名前だけ知っている職業も複数あり、具体的な内容を講義を通じて学ぶことが出来ました』等の記述があった。11サブグラフでも、「今回」「他」の共起関係について回答例では『多職種連携という言葉や意味は他の授業でも聞いたことがあったが、この授業を通じて改めて学ぶことが出来ました』等の記述があった。

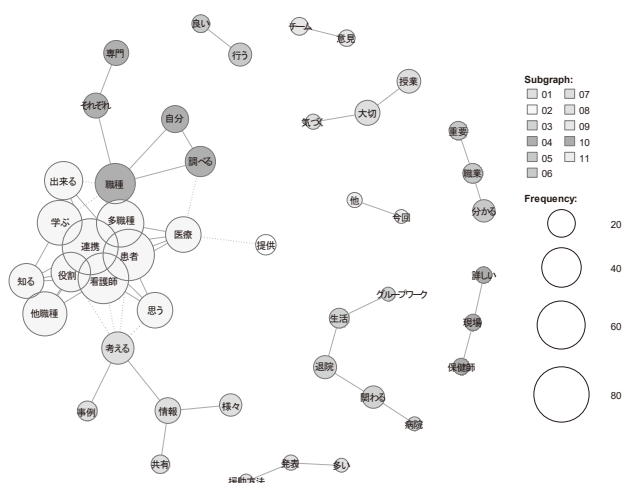


図1 講義の学びのネットワーク図

多職種の専門的な役割を学ぶ方法については、04サブグラフでは、「職種」「それぞれ」の「専門」を「自分」で「調べる」に共起関係がみられた。また、01サブグラフでは、「事例」を「考える」、「様々な」「情報」「共有」を「考える」に共起関係がみられた。回答例では『それぞれの職種の専門性を交えて情報共有しながら連携することが求められるとわかりました』等の記述があった。さらに、08サブグラフでは、「発表」で「多い」「援助方法」の共起関係について回答例では『グループワークや発表を通じて紙いっぱい埋まるほどの援助方法があり、人の意見を聞いて学べた場面がすごく多かった』等の記述があった。

在宅、医療機関、保健福祉施設などにおける多職種の連携については、10サブグラフでは、「保健師」「現場」「詳しい」の共起関係について回答例では『看護師や保健師などの貴重な実体験を聞くことができてよかった』『保健師の目線からの講義では多職種連携に関しての内容が薄く連携についての部分があまり詳しく触れられてない』等の記述があった。03サブグラフでは、「退院」「生活」には「病院」「関わる」の共起関係について回答例では『多職種の連携があるからこそ、患者の入院前から退院後の生活につなげることが出来ると思いました』等の記述があった。

V. 考察

1. 科目の到達目標について

1) 在宅、医療機関、保健福祉施設などにおける多職種の連携について説明できる。

「病院」「退院」「生活」が抽出されており、医療機関に入院中の対象者への支援と退院へむけた支援について学び説明することができたと考えられる。しかし、共起ネットワーク図に「病院」以外の施設がないこと、

『保健師の目線からの講義では多職種連携に関しての内容が薄く連携についての部分があまり詳しく触れられていない』とあり、在宅や保健福祉施設の多職種連携について学びが深まらなかったと考えられる。

学生は多職種連携の講義開始前に基礎看護実習Ⅰで医療機関に入院する患者を受け持つ臨地実習を経験している。しかし、本学では在宅と保健福祉施設の臨地実習は3年次の領域実習として実施している。そのため在宅と保健福祉施設の臨地実習を経験していないため、在宅と保健福祉施設の対象者の生活や看護職の役割がイメージできておらず、今回の教授方法や内容では学生自身が講義での学びと認識しなかった。

次年度にむけては、医療機関内の多職種連携がイメージできていると考えられることから、医療機関と比較しながら在宅や保健福祉施設における多職種連携について教授するなどの教授方法や内容の検討が必要である。

2) 地域連携のための看護職の役割と実際の活動を説明できる。

「看護師」「役割」「知る」が抽出されており、看護師の役割について学び説明することができたと考えられる。また、講義で病棟看護師・退院調整看護師・訪問看護師と保健師の実際の経験を踏まえた内容を聴き、看護職の役割と実際の活動を学ぶことができた。しかし、今回の調査では看護職の役割や実際の活動の詳細についての記載はないため、個人ワーク・グループワーク・プレゼンテーションやレポートの内容を含めたさらなる検証が必要である。

2. 多職種連携に関する学修効果について

1) 講義の方法について

「自分」で「調べる」、「グループワーク」と「発表」で多くの意見を聞くことで学びを深めることができたと考えられる。安永(2011)は「小グループでの仲間との対話を通じて学習課題を学ぶ」「協同の精神で学び合うことにより、学びに対する態度と学習の捉え方が変わる」と報告している。北村ら(2021)の「話し合いにより知識が深まった」と同様に、個人ワークでの学びをグループで共有し、グループメンバーで話し合うことがより深い学びにつながったと考えられる。しかし、本講義は1年次に開講しておりグループワークの経験が少ない学生が対象であることから、協同の精神で学び合うグループワークができていないかの検証が必要である。

2) 学修効果の検証について

今回の調査は講義終了時点のリアクションペーパーの内容分析に限定しており、学生の主観的な学びである。「今回」「他」の共起関係にあるように、多職種連携と他の授業を比較することで得た学びもあり、他の授業での学びも含まれている可能性がある。また、古澤ら(2017)は、4年間のカリキュラムをとおして多職種連携に関する到達目標・行動目標を定め、その多職種連携の行動目標に対する到達度の自己評価(古澤ら2022, 2019)については、講義・演習・実習の積み重ねが多職種連携に対する意識・態度・修得に影響していると報告している。このことから客観的な評価による効果の検証を行い、今後の学修内容・方法やプロセスの改善を図っていく必要である。

VI. まとめ

2022年度入学生から新カリキュラムが適応されることとなり、1年次後学期に多職種連携の講義を開講した。講義では医療機関に限らず在宅や施設等の多様な場における多職種との連携の視点が学べるように工夫した。個人ワークで保健医療福祉における多職種の専門性を調べ、グループワーク、プレゼンテーションのプロセスを積み重ねることで、患者を取り巻く多く職種を知り、その職種の役割や援助方法の学修を深めた。また、講義を通じて地域連携のための看護師と保健師の役割と実際の活動を知ることが明らかになった。しかし、今回の調査は講義終了時点のリアクションペーパーの内容分析に限定しており、次年度の学修内容やプロセスの改善については個人ワーク・グループワーク・プレゼンテーションやレポートの内容を含めた考察が必要である。

本稿において、開示すべき利益相反は存在しない。

Ⅶ. 文献

- 古澤洋子, 大見サキエ, 尾関唯未, 他 (2022). A 大学における IPE の教育評価 (第 4 報), 岐阜聖徳学園大学看護学研究誌, 7, 1-9
- 古澤洋子, 小林純子, 服鳥景子, 他 (2019). 岐阜聖徳学園大学における多職種連携教育の構築 (第 3 報) —学生の IPE/IPW 態度の変化による多職種連携教育の中間評価—, 岐阜聖徳学園大学看護学研究誌, 4, 29-36
- 古澤洋子, 小林純子, 服鳥景子, 他 (2017). 岐阜聖徳学園大学における多職種連携教育の構築 (第 1 報), 岐阜聖徳学園大学看護学研究誌, 2, 21-28
- 北村真由美, 武藤英理, 岩崎順子, 他 (2021). ワールドカフェを用いた成人看護学演習における学生の学び —テキストマイニングによる分析から—, 朝日大学保健医療学部看護学科紀要, 8, 55-60
- 厚生労働省 (2019). 看護基礎教育検討会報告書. 厚生労働省ホームページ. https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_07297.html (参照 2023年1月12日)
- 文部科学省 (2019). 21 世紀に向けた介護関係人材育成のあり方に関する検討会 第一次報告. 文部科学省ホームページ. https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/098/gaiyou/mext_00099.html (参照 2023年1月12日)
- 安永 悟 (2011). 新しい教育方法の提案～学び合い学習, JUCE Journal, 3, 2-7